令和４年12月１日
12月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
全三河書道百選展
代表　磯谷　凄聴 氏
この人に聞く…… 2
岡崎野鳥の会
前会長　立石　次朗 氏
羅 針 盤…… 2
美合小学校
校長　大西　裕子
ふれあい…… 3
矢作北中学校
教諭　長谷川千草
特　集…… 4
子供たちの学びを支えるICT
―変わる学びの姿―
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
親子ふれあい科学教室（平成８年）
この本を…… 8

教育随想

全三河書道百選展五十周年を迎えて

全三河書道百選展
代表　**磯谷　凄聴　氏**

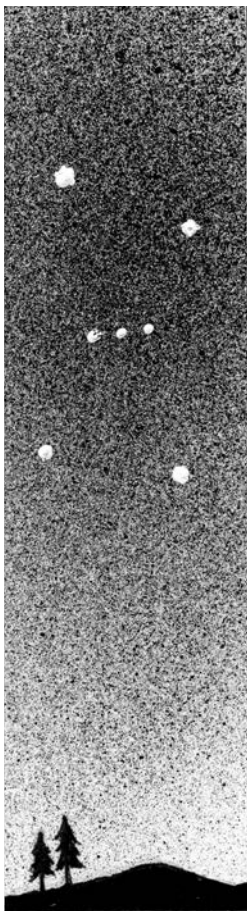
全三河書道百選展（以下百選展）は、昭和四十八年に始まり、今年五十回目を迎えた。十年以上も前となるが、高校の教員時代、漢文の教材にあった「創業は易く守成は難し」が頭に浮かんだ。「新たに事業を興すよりも、衰えさせないように守っていく方が難しい」という意味であるが、百選展に関してみると、必ずしもそうとは言い切れない。

それは、三河に在住する書家の中から百人を選び、出品を依頼し、承諾を得ることで開催できるという、例を見ない展覧会だからである。当時、百人を選ぶのは誰か、どのような基準で選ぶのかが大きな問題であったという。その任にあたったのは、愛知教育大学で教鞭をとられていた神谷葵水先生、後に日展審査員に就任された戸田提山先生をはじめ、浅田蓬村先生、戸松秋月先生などの方々であった。それは、回顧録によって知ることができた。

例を見ない展覧会と述べたが、全国的には、同じような展覧会は、少ないものの開催されたことはある。しかし、ほとんどが数年で中止となり、長く続くものはなかった。同じ書家といっても、求める作品の傾向が大きく異なる作家の集まりでは、対立することが多い。それが、この三河では五十年も続いているということで相当注目されている。その理由を考えてみると、一つは、「人」を選ぶ者が「己」を捨てて公正に選んでいることを知ってもらうこと、更には、出品者全員で運営にあたっていること、これらのことに尽きると思う。

書道の世界も高齢化が進み、次世代にバトンを渡すことが厳しいものがある。幸い、この数年に二十代、三十代の若い書家の出品がみられるようになった。この流れを絶やさないよう、多くの方に書道作品を鑑賞していただき、自らも制作したいと思ってもらえるよう努力したい。

（いそがい　せいちょう）



探鳥活動で社会を見る眼を養う

岡崎野鳥の会
前会長　**立石　次朗　氏**

―野鳥観察を続けてきた理由―

鳥に興味を抱くようになったのは中学生の頃です。当時、叔父が小鳥屋を経営しており、手伝いをする中で、鳥たちの色彩の美しさにひかれて野鳥観察をするようになりました。二十代後半に西三河野鳥の会、三十代前半で岡崎野鳥の会に入会し、岡崎野鳥の会では、令和四年二月まで会長を務めさせていただきました。

四十年以上野鳥観察を継続してきましたが、野鳥観察への興味は尽きることがありません。野鳥の生態はほんの十パーセント程が究明されているだけで、ほとんどが未だ知られていないからです。言い換えれば、誰もが新発見をする可能性があり、それは初心者の方でも十分可能だということです。「初心者でも主役になれる」野鳥観察は、継続に値する魅力をもっていると思います。そして私自身、野鳥観察で不思議を一つ持ち帰ることを目標にしています。

―岡崎野鳥の会の魅力―

岡崎野鳥の会では、これまで月例探鳥会を毎月十か所で行うほか、特別探鳥会を随時開催してきました。現在も、市内の六か所で定期的に探鳥会を開催しています。探鳥会ではフィールドスコープで木にとまっている実物を見ながら説明をします。レンズに映った野鳥は、まるで、すぐ目の前にいるかのようにはっきりと見えます。子供はもちろん、大人からも「へえ」とか「わあ」という感嘆の声があがります。その瞬間、野鳥の魅力を伝えられたと実感します。この野鳥を見て発する最初の感動の声を、そこにいる全員が共有できるのが好きで、それを最大の楽しみにしながら毎回参加しています。

―環境保全についての考え方―

カワセミという鳥は川岸の崖に穴を掘って巣を作り、繁殖をします。ところが護岸工事で川岸がなくなった今、コンクリートに埋め込まれた塩ビパイプの中に巣を作り、そこで子育てを始めるものもいます。カワセミが環境の変化に適応している証拠です。しかし、人間にとってだけ快適な開発を進め続けたら、野鳥もきっと適応しきれなくなります。人間の都合ばかり追い求めず、生物にありのままの自然を少し残すことができれば、共生社会の実現が可能になると考えます。

―今後の愛鳥活動に馳せる思い―

皆さんの中にスズメを知らない人はいないでしょう。でも、スズメのイラストを渡して、「色を塗って下さい」と頼んだら、どれだけの人が自信をもって色を塗れるでしょう。私にとって「見る」こととは、漠然と眺めるのではなく、物事の本質までしっかりと見ることを指しています。

今後、私が最も力を入れたい活動は、子供たちへの愛鳥教育です。そこで、野鳥に限らず、社会を見る眼を養ってほしいと思います。それは、長い間楽しませてくれた野鳥に対する恩返しだと考えています。野鳥を通して自然の素晴らしさを知ってもらい、人間の開発ありきの社会ではなく、生物たちにとっての環境も豊かに保たれることを強く願います。

氏名　たていし　じろう
生年月日　昭和三十一年八月二十八日
住所　岡崎市若松町

アナログのススメ

美合小学校
校長　**大西　裕子**

昨今の教育現場におけるＩＣＴ活用の「進化」は著しい。まさに、加速度的に日々進歩している。

今ではすべての学校でタブレットが活用され、連絡や出欠席もパソコン上で把握できる。授業でもそうだ。スクールタクトやコラボノートを活用すれば、以前、何時間もかけて手書きの座席表を作成していたものが、瞬時に全員に示される。夜の職員室で、先輩たちと教材談義をしながら、子供が書いた付箋を切り貼りしていた時代が懐かしい。

様変わりし、便利になってきたことは確かであるが、大切にしていきたい姿、形はある。

例えば、文字や漢字を覚えること。静かな教室で、姿勢をよくして机に向かう。鉛筆の音が響く。心でつぶ

憧れの背中を追って

矢作北中学校
教諭　長谷川　千草

中学二年生の春、Aさんは「野の花」という校内適応教室で過ごすことを決めた。小学五年生からほとんどの時間を家で過ごしたAさんにとって、とても大きな一歩である。頑張ろうとしているAさんの力になりたい。少しでも自信をつけ、二年後、この矢北中から力強く羽ばたいてほしい。そんな思いからAさんとの毎日が始まった。

しかし、Aさんにとって久しぶりの学校生活は、思い通りにできないことが少なからずあり、後ろ向きな気持ちになることも多かった。Aさんが「できない」と感じる壁を乗り越えていくためには、未来に向けた前向きな気持ちと目標とする存在が必要だと感じた。それを支えにして「できる」経験を重ね、自信をつけていき、失敗を恐れない人になってほしいと思った。

野の花教室には、中学二年生までを家で過ごしたという、Aさんと似た経験をもつ先輩であるBさんがいた。進路実現のために頑張るBさんと関わる中で、Aさんの未来に向けた頑張りを引き出したいと考えた。

時間が許せば野の花教室に行き、Aさんと一緒に勉強をした。また、時にはBさんが目指している高校の話や電車での通学の話、さらには帰り道にするかもしれない寄り道の話など、いろいろなことを話した。Aさんは、Bさんに一年先の自分を重ね、まだ見ぬ未来について、溢れる笑顔で語った。

二学期のある日、野の花教室に行ってみるとAさんが一番苦手と話していた数学を勉強していた。隣にはBさんが座って教えている。今まで向き合えなかった数学にも、Bさんの支えで向き合えるようになった。Bさんの優しさに支えられながら、数学の勉強を続けるAさんに、私は、花丸を付けて「頑張ったね」とコメントを書いた。

分からなかった問題が解け、自信をつけたAさんは、それまでの様子とは明らかに異なり、「小学校の算数で分からないところがあるからやりたい」と言うようになっていた。勉強を進める中でAさんの夢は膨らんでいった。

それからはAさんと一緒にいろいろな高校のパンフレットを開く機会が増えた。Aさんが興味を示している高校の過去問から、解けそうな問題を見つけて取り組ませた。花丸を付けるたびに、目標である高校の合格に近づいていることをともに喜んだ。

Aさんは「できないこと」と少しずつ向き合えるようになった。そして、「できない自分」と向き合うことにも恐れを感じなくなっていった。それと同時に、自分を支えてくれるBさんのように、自分も誰かを支えられる存在になりたいと話すようになった。

Bさんの卒業後、野の花教室で下学年のそばに寄り添い、優しい眼差しで作業を手伝うAさんがいた。Aさんは人との関わりの中で成長し、「自分」という存在を確立していった。自分の足で力強く歩み出したAさんが、これから先も憧れとなる人の背中を追って、次の世界へと羽ばたいていくことを願っている。

やきながら集中して書く。自分の考えをノートに書くことも、何をどのように書くか、思考力が存分に働く時間であり確保したい。自分の考えがあってこその友達との対話や交流であり、チームにおける学習の深まりが期待できると考える。一授業や単元の終末には、自分の言葉で、この学習を通して、何ができるようになったのか表現させたいと思う。

アナログの学習は、確かな学力を身に付けるために、必要不可欠なものである。絵本を手に取って本の世界に浸ること。紙質を指先で感じ、挿絵の隅々まで自分のペースで見入り、ページをめくる。お気に入りの本には何度も触れ、ページを行きつ戻りつし、愛着を感じるであろう。

オックスフォード大学などの調査で、今後十年から二十年の間で約半数の仕事が消える可能性があると発表され、世界に衝撃を与えた。その中に、「教師」という仕事は含まれなかった。人に寄り添い、人の成長に関わる教職は、AIには困難な仕事ということらしい。デジタル化が急速に進む中でも、アナログな部分を欠かすことができない教職に就いている私たちは誇らしい気持ちになる。

さあ、先生たち、今日も笑顔で子供の前に立とう。

子供たちの学びを支えるICT
―変わる学びの姿―

▲伝統産業を紹介する映像の作成（六ツ美北部小）

「岡崎版ＧＩＧＡスクール構想」の公表から、間もなく三年が経過しようとしている。本市では、他市町に先駆ける形で全児童生徒にタブレット端末を貸与、運用を開始した。以降、授業で積極的に活用され、タブレットを中心としたＩＣＴは子供たちの主体的・協働的な学びにおいて不可欠なツールとなりつつある。

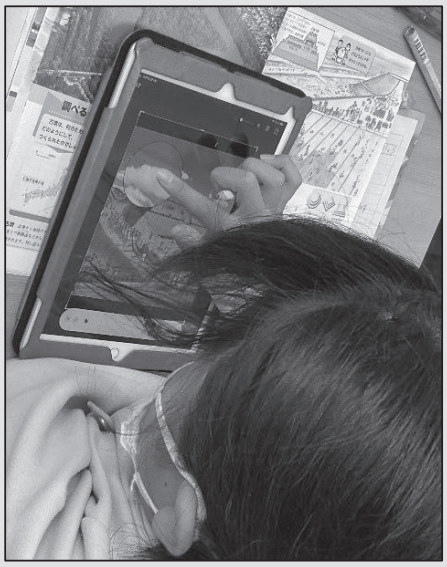
各校で進められている実践の様子から、タブレット端末を活用し、各自の進度や目的に合わせた学習が展開され、「一人一人に合わせた」学習の個別最適化が進んでいることが見て取れる。

また、ＩＣＴの活用により、個別に進めた学習の成果や課題を容易に共有し「みんなで高め合う」活動も充実してきた。今夏より、中学校に導入された電子黒板でデジタル教科書の動画やテキストを大きく提示できる。資料に書き込んだり、拡大提示したりして考えを共有することもできる。今後も積極的な活用により、更なる学習効果が期待される。

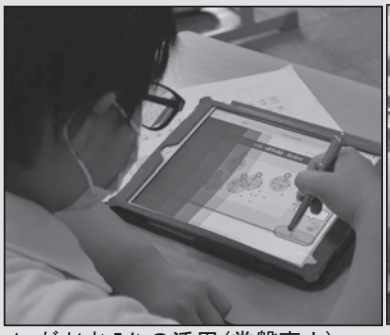
さらに、多くの人たちと「オンラインでつながる」ことができるようになった。外国の方や他校の子供たちと会話ができる。オンライン企業見学も行われている。ＳＩＮＥＴにより、著名な研究者との双方向型のオンラインセミナーも実現した。わくわくするような出会いや交流が子供たちの探求心を高めている。

今や、ＩＣＴは子供たちの学びを支えるツールとしての大きな役割を果たしている。ＩＣＴの活用によって変わってきた学びを、子供たちの更なる成長のためにどう生かせるのか。私たちもわくわくしながら模索していきたい。

「一人一人に合わせて」



▲デジタル資料集の活用（上地小）



▲ｺｸﾞﾄﾚｵﾝﾗｲﾝの活用（常磐東小）

▲まなびポケットの活用（大樹寺小）

ｺｸﾞﾄﾚｵﾝﾗｲﾝは、主に朝の学習の時間を使って取り組みます。自分のペースで進められるから、楽しく取り組めています。（常磐東小）

自分が見たい部分を自由に拡大することができるので、細かいところまでじっくりと見ることができます。（上地小）

▲コラボノートの活用（生平小）

「みんなで高め合う」

▲グループで同じ音源を同時に鑑賞（六名小）

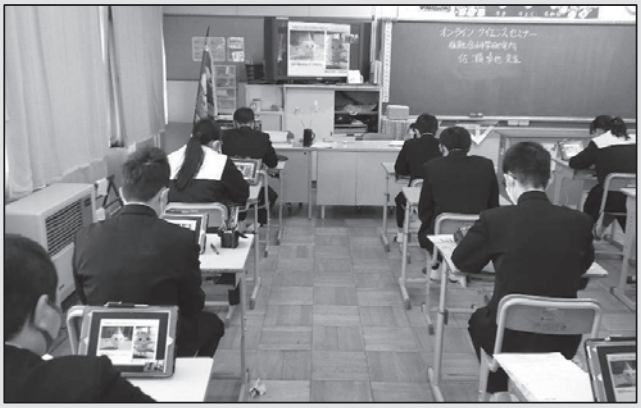
▲実験結果の共有、考察のための撮影（三島小）

▲抱え込み跳びのフォームの撮影（城南小）

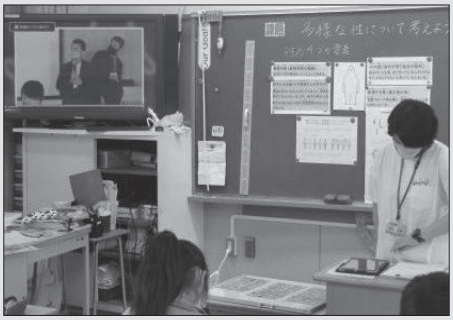
▲電子黒板による意見の共有（福岡中）

「オンラインでつながる」

▲近隣小学校と交流（常磐南小）



▲大学や研究機関の双方向型オンラインセミナー（河合中）



▲知識流動システム研究所の映像（小豆坂小）

▲食品会社にオンライン企業見学（岩津小）

▲外国在住の方と交流（美川中）

・なかなか会うことのできない会社の担当者の方に直接『日本人を欧米並みに大きくしたい』という会社設立の精神と、うまみ成分発見の話を聞いたり質問をしたりすることができました。（岩津小　児童の感想）

・担当者の方から直接、会社の歴史を聞くことができました。実物の昆布を送ってもらって説明を聞き、薄味の味噌汁に化学調味料を入れて味の変化を実感したので、本当に見学に行ったみたいでした。（岩津小　児童の感想）

●教育最新情報

◆令和四年度全国学力・学習状況調査における岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

1　調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

下記の通りです。

2　岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

(1)　国語、算数・数学、理科における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。

(2)　(1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。

(3)　各学校で行っている「教育診断アンケート（学校評価）」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。

(4)　教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

令和４年度全国学力・学習状況調査　岡崎市の分析結果

《小学校６年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	できている ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く力がたいへん優れている。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力がたいへん優れている。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力がやや弱い。 ・学年別配当漢字表に示されている漢字を、文の中で正しく使う力が弱い。
算数	できている ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する力がたいへん優れている。 ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察、記述する力がたいへん優れている。 ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する力が弱い。 ・百分率で表された割合を分数で表す力が弱い。
理科	できている ・水が蒸気になって、空気中に含まれていることについて、たいへんよく理解している。 ・自分で発想した実験方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができている。 ・昆虫の体のつくりについての理解が弱い。 ・メスシリンダーなど器具の正しい扱い方を理解して実験を行う力が弱い。
学習状況	・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童は、そうでない児童に比べ正答率が高い。睡眠時間を十分に確保し、規則正しい生活を送れている児童が、高い正答率を得ている。 ・「学校で、学級の友達と意見を交換をする場面で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使っているか」の質問に対して、「週１回以上」と回答した児童は、全国平均を上回る結果となった。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」児童は全国平均を上回り、また、「そう思わない」児童に比べ、正答率が高い。友達と意見を関わらせたり自分の考えを主張したりすることができる児童が、高い正答率を得ている。
生活状況	・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童の割合は、全国平均を上回っている。 ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童の割合は、全国平均を下回っている。

《中学校３年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	よくできている ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について、たいへんよく理解している。 ・論理の展開などに注意して聞く力がたいへん優れている。 ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える力がたいへん優れている。 ・事象や行為、心情を表す語句について、やや理解できていない。
数学	たいへんよくできている ・自然数を素数の積で表す力がたいへん優れている。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取る力がたいへん優れている。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が身に付いている。 ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解する力が身に付いている。
理科	たいへんよくできている ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その関係について説明する力がたいへん優れている。 ・節足動物とアリの外部形態を比較して、共通点と相違点を捉える力がたいへん優れている。 ・日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象について、知識及び技能を活用する力がたいへん優れている。 ・液体が気体に変化する状態変化について、知識、技能を活用する力がやや弱い。
学習状況	・「朝食を毎日食べる」「起床時刻が決まっている」「就寝時刻が決まっている」など、規則正しい生活を送る生徒の方が、高い正答率を得ている。 ・「１、２年生のときに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用したか」の質問に対して、「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した生徒が、全国平均を大きく上回る結果となった。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」生徒ほど、正答率が高い。自分に必要なことを考え、主体的に取り組める生徒が高い正答率を得ている。
生活状況	・「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っている。 ・地域の行事、活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っている。

●表彰関係

◆第4回愛知県中学校新人陸上競技大会
○男子80mH
1位　翔南中　権田　颯志
○女子走高跳
1位　矢作北中　夏目　純佳
○男子3000m
3位　北中　秋田　順哉

◆第29回愛知県中学校カヌー大会新人戦
○男女総合
優勝　新香山中
○女子総合
優勝　新香山中
○男子カナディアン一人乗り
優勝　新香山中　水野　駈
3位　新香山中　山嵜　大地
○男子カナディアン二人乗り
2位　新香山中
水野　駈・平松　陽向
3位　新香山中
山嵜　大地・八木　琉成
○男子カヤック一人乗り
2位　新香山中　林　隼汰
○男子カヤック二人乗り
2位　新香山中
落畑　颯太・近藤　信瑠
○男子カヤック四人乗り
3位　新香山中
林　隼汰・進藤　来空
清水　陸翔・森　陽大
○女子カヤック一人乗り
3位　新香山中　淺枝　三結
○女子カヤック二人乗り
優勝　新香山中
釘　宮輝・山﨑　栞愛
2位　新香山中
淺枝　三結・小山　果倫
○女子カヤック四人乗り
3位　新香山中
釘　宮輝・山﨑　栞愛
沖林　綾瞳・坂田結衣香

◆第66回日本学生科学賞愛知県展
最優秀賞（愛知県知事賞）
額田中　鈴木　風雅
最優秀賞（名古屋市長賞）
美川中　森田　晴空
最優秀賞（名古屋市科学館賞）
北中　内田　崚雅
美川中　今井　雫月

◆第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会
○中学校A部門
優秀賞　矢作中

◆第65回中部日本吹奏楽コンクール本大会
○中学校小編成
銀賞　矢作中

◆第57回CBCこども音楽コンクール
○合唱部門
優秀賞（中部日本決勝大会進出）
竜海中
○重唱部門
優秀賞（中部日本決勝大会進出）
竜海中

◆愛知県中学生創造ものづくり教育フェア「創造アイデアロボットコンテスト」
○応用・発展部門
優勝（東海・北陸大会に進出）
葵中
近藤　琉唯・髙野　綾士
中村　爽蒼・都築　信賢
安原　空我・渡邊　和稀
○計測・制御部門
優勝（東海・北陸地区大会に進出）
福岡中
長網　時生・髙村　太一
坂井　力
2位（東海・北陸地区大会に進出）
福岡中
畠中　拓実・村田　和友
3位（東海・北陸地区大会に進出）
福岡中
久原　征磨・大畑　晴宗
太田　悠斗

◆第70回統計グラフ全国コンクール
○第1部（小学校1～2年生）
佳作　三島小　太田　小陽
○第2部（小学校3～4年生）
佳作　三島小　安枝　敬登
○第3部（小学校5～6年生）
佳作　三島小　野田紗恵理
○パソコン統計グラフの部
佳作　竜美丘小　古田　六花

◆第90回全国書画展覧会
○書写の部
筆都大賞　城南小　稲垣　栞凛
筆都大賞　城南小　内田　実来

◆第26回東海小学生バンドフェスティバル
金賞　竜美丘小

◆令和4年度明るい選挙啓発ポスターコンクール
○小学校の部
入選（中央審査に提出）
小豆坂小　峯田　浩向

◆第74回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール
○書写の部
愛知県共同募金会金賞
城南小　内田　実来
○ポスターの部
愛知県共同募金会佳作
小豆坂小　久野　桃愛

◆第22回読書感想文「こころの木」
優良賞
三島小　山﨑　真維

◆第66回愛知県統計グラフコンクール
○第1部（小学校1～2年生）
金賞　三島小　太田　小陽
銀賞　上地小　森　優貴
銀賞　三島小　山口　暉仁
銅賞　三島小　中西　真優
銅賞　三島小　野村　春斗
○第2部（小学校3～4年生）
金賞　竜美丘小　渡辺　藍梨
金賞　三島小　安枝　敬登
銀賞　三島小　坂本　晴崇
銀賞　三島小　野島　彩加
銀賞　井田小　宮崎　織瑚
銅賞　三島小　宮崎　仁瑚
銅賞　三島小　石川　愛琉
銅賞　三島小　野村　奈央
銅賞　三島小　判治　里紗
銅賞　三島小　丸山　明莉
○第3部（小学校5～6年生）
金賞　連尺小　長谷　祐真
金賞　三島小　野田紗恵理
金賞　上地小　龍瀧　玲菜
銀賞　三島小　青山　結衣
銀賞　連尺小　安藤　優衣
銀賞　竜美丘小　石川　蓮理
銀賞　三島小　太田　幸希
銀賞　上地小　鈴木　愛未
銅賞　三島小　足立　隆哉
銅賞　竜美丘小　鎌田　結愛
銅賞　三島小　白石　麻衣
○第4部（中学生）
金賞　竜海中　荒川　琴音
金賞　翔南中　石塚優理子
金賞　竜海中　織田浩太朗
銀賞　翔南中　太田　陽
銀賞　竜海中　池田　悠人
銀賞　竜海中　権田　颯志
銀賞　甲山中　大国　美琴
銀賞　竜海中　鳥居　咲良
銀賞　竜海中　服部　翔琉
銅賞　翔南中　判治　直哉
銅賞　竜海中　石川　優菜
銅賞　竜海中　張　学悠
○パソコン統計グラフの部
金賞　竜海中　古田　尊一
金賞　竜美丘小　古田　六花
銀賞　新香山中　石川　創樹
銅賞　新香山中　多田　愛
宍戸　侑斗

【訂正】十一月号のお知らせページ「令和四年度岡崎市小学校体育大会」バスケットボール女子のブロック名に誤りがありましたので訂正いたします。

令和4年度岡崎市小学校体育大会　バスケットボール

		優勝	第2位	第3位	
女子	北	井　田	細　川	北　野	矢作北
	南	六ツ美西部	上　地	六ツ美南部	福　岡
	東	男　川	三　島	竜美丘	小豆坂

教職員の相談窓口

【対象】全教職員　【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと　等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日　12:00 ～ 19:00 土曜日　12:00 ～ 16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日　13:00 ～ 20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日　9:00 ～ 16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休　9:00 ～ 16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休　24 時間

親子ふれあい科学教室
（平成８年）

写真提供：小豆坂小学校

子供たちが赤と青のセロハンを使った自作の眼鏡を掛け、立体視を体験している。科学の不思議に興味をもつ子供の育成を目標に開催された、親子ふれあい科学教室での活動風景である。

小豆坂小学校では、平成八年度以降毎年、科学教室を開催している。招聘した専門家の指導の下、空気砲や気球、液体窒素などの不思議実験を全学年児童が体験する。多くの子供たちが心待ちにする大切なイベントの一つである。

子供たちの疑問や驚き、感動を大切にする教育。実験・観察など、体験を重んじる科学教育。そんな探究学習が岡崎では脈々と行われている。

・カット　福岡中　山田　周

＊嫌われた監督　　**鈴木　忠平**
文藝春秋　　¥1,900

心に残った一文

俺は選手の動きを一枚の絵にするんだ。

日本一のかかった大舞台で、完全試合目前の山井投手を交代させた中日の落合監督。冷徹なイメージをもっていたが、本書を読み進める中で、それは大きく変わった。選手の動きを「一枚の絵」としてとらえ、日々の選手の動きのずれを見出し、得られた確信をもとに采配を振るう。選手に教えるのではなく、意味深な一言で選手自らが考えるように仕向ける。心に響く巧みな手腕に、本物の指導者の姿を見た。

指導者として、眼前の子供をどう見取り、寄り添っているだろうか。自分の指導を見つめ直す契機となる一冊である。

＊こうして社員は、やる気を失っていく　**松岡　保昌**
日本実業出版社　　¥1,600

＊全米トップ校が教える自己肯定感の育て方　**星　友啓**
朝日新書　　¥790

＊最高のリーダーは、チームの仕事をシンプルにする　**阿比留眞二**
三笠書房　　¥720

男川小学校　**中西　勉**

ホッと

頬を真っ赤に染めて、子供たちが寒風の中、懸命に走る。今年も、マラソン、そして駅伝の季節がやってきた。

自分の記録を伸ばそう。仲間のために一秒でも早く襷を繋ごう。苦しさに顔をゆがめながら全力で走りぬく姿はいつも見る者に感動を与え、心を熱くする。

鳥の魅力は、その生態がほとんど知られていないことにある。探鳥会で、新しい不思議を一つだけ持ち帰るという付き合い方こそ継続の秘訣と話す立石さんの姿に、目指すべき授業の方向性を感じる。

毎日、毎時間、子供たちに何か発見をさせられる教師であり続けたい。

師走

使い方に苦慮していた導入直後とは異なり、今やタブレットは学習ツールとして欠かせないものとなった。

学びにおける「個別最適化」「高め合い」「人や社会とのつながり」をさらに進めるツールとして、ICT機器の活用を通じて子供たちを導いていきたい。

▲「激走」マラソン大会（緑丘小）